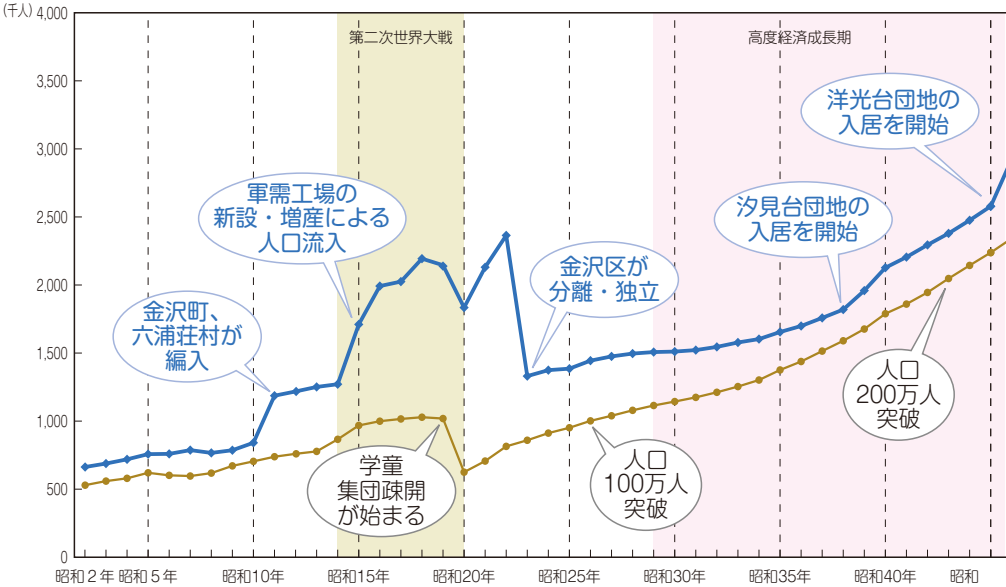


# 人口

## ◆横浜市と磯子区の人口の推移

【横浜市】

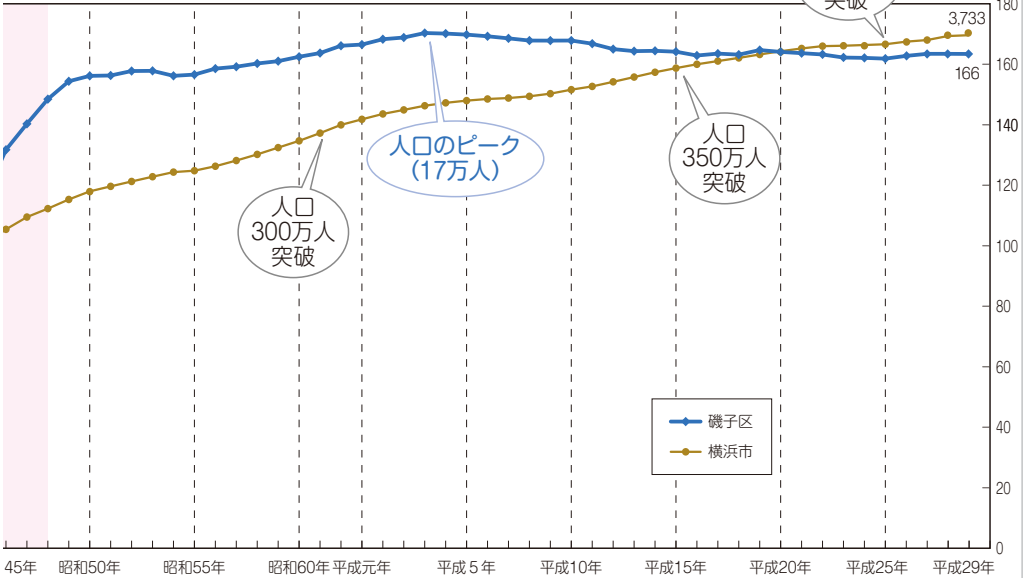


港南区・旭区・緑区・瀬谷区が誕生(昭和44年)  
 磯子区制40周年(昭和42年)  
 東京オリンピック開催(昭和39年)  
 マリンタワー完成(昭和36年)  
 横浜開港100年(昭和33年)  
 磯子区制30周年(昭和32年)  
 磯子消防署・磯子公会堂新築落成(昭和32年)  
 テレビ放送開始(昭和28年)  
 磯子区の一部が分区し、金沢区が誕生(昭和23年)  
 横浜大空襲(昭和20年)  
 西区誕生(昭和19年)  
 南区誕生(昭和18年)  
 港北区・戸塚区が誕生(昭和14年)  
 ニューヨーク株式大暴落、世界恐慌始まる(昭和4年)  
 区制施行により鶴見区・神奈川区・中区・保土ケ谷区・磯子区が誕生(昭和2年)

※昭和2～9年は公簿調査による戸籍人口、昭和10年以降は国勢調査及び推計人口調査によります。ただし、昭和5年は国勢調査、昭和16、23年は常住人口調査、昭和19～21年は人口調査によります。

【磯子区】

(千人)



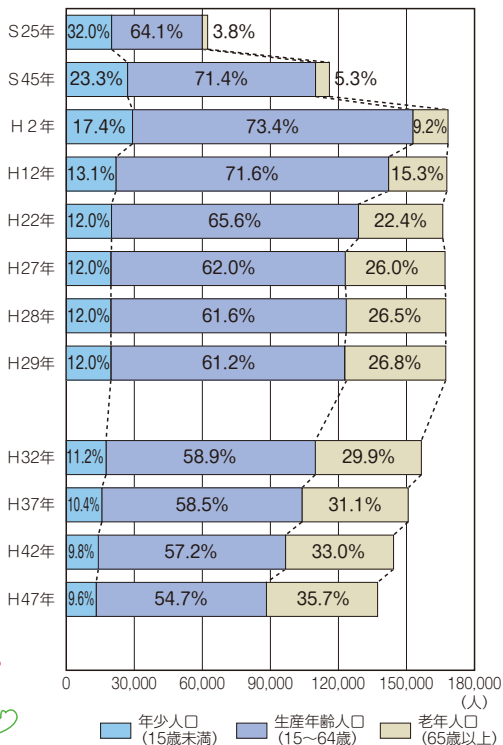
- 磯子区制90周年(平成29年)
- 市民参加型フルマラソン「横浜マラソン2015」初開催(平成27年3月)
- 区のマスケットキャラクター「いそび」制定(平成23年)
- 東日本大震災(平成23年3月11日)
- 横浜開港150周年(平成21年)
- 磯子区制80周年(平成19年)
- みなとみらい線開通(平成16年)
- 2002 FIFAワールドカップ 韓国・日本開催(平成14年) ↓決勝戦は横浜で
- 磯子区新総合庁舎が完成(平成11年)
- 横浜国際総合競技場オープン(平成10年)
- 磯子区制70周年(平成9年)
- 青葉区・都筑区が誕生(平成6年)
- 横浜ランドマークタワーオープン(平成5年)
- 金沢シーサイドライン開通、横浜ベイブリッジ開通(平成元年)
- 磯子区制60周年(区の木「梅」、区の花「コスモス」を制定(昭和62年) 栄区・泉区が誕生(昭和61年)
- 区のシンボルマークを制定(昭和58年)
- 横浜スタジアム完成、大通り公園開園(昭和53年)
- 磯子区制50周年(昭和52年)
- JR根岸線が全線開通
- 石油危機(洗剤・トイレットペーパー不足が深刻化)(昭和48年)

※各年10月1日現在。ただし、昭和2～4年、6～9年は12月31日現在、昭和18年は12月1日現在、昭和19年は2月22日現在、昭和20年は11月1日現在、昭和21年は4月26日現在、昭和23年は8月1日現在。

## ◆年齢三区分別人口の推移 ～少子高齢化がさらに進行～

年少人口（15歳未満）の割合は低下傾向で推移し、平成2年には総人口に占める割合が20%を下回りました。平成17年から12%前後で推移していますが、少子化が進行している状況といえます。

一方、老年人口（65歳以上）の割合は、増加傾向で推移し、磯子区では平成22年に総人口に占める割合が20%を超え、その後も増え続けています。平成29年には区民の約3.7人に1人が65歳以上の高齢者となっています。



現在26.8%となっている磯子区の老年人口の割合は、2020年（平成32年）には約30%、2030年（平成42年）には約33%となる見込みだよ。

横浜市将来人口推計

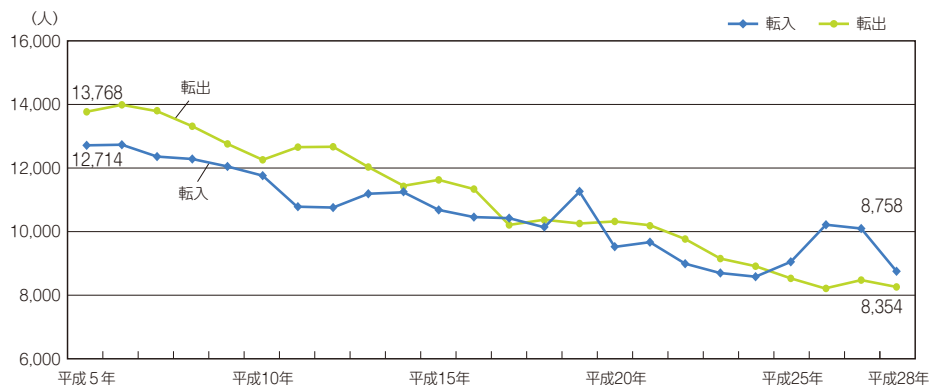
検索



※各年国勢調査、H12以降は登録人口（各年3月31日現在により掲載）

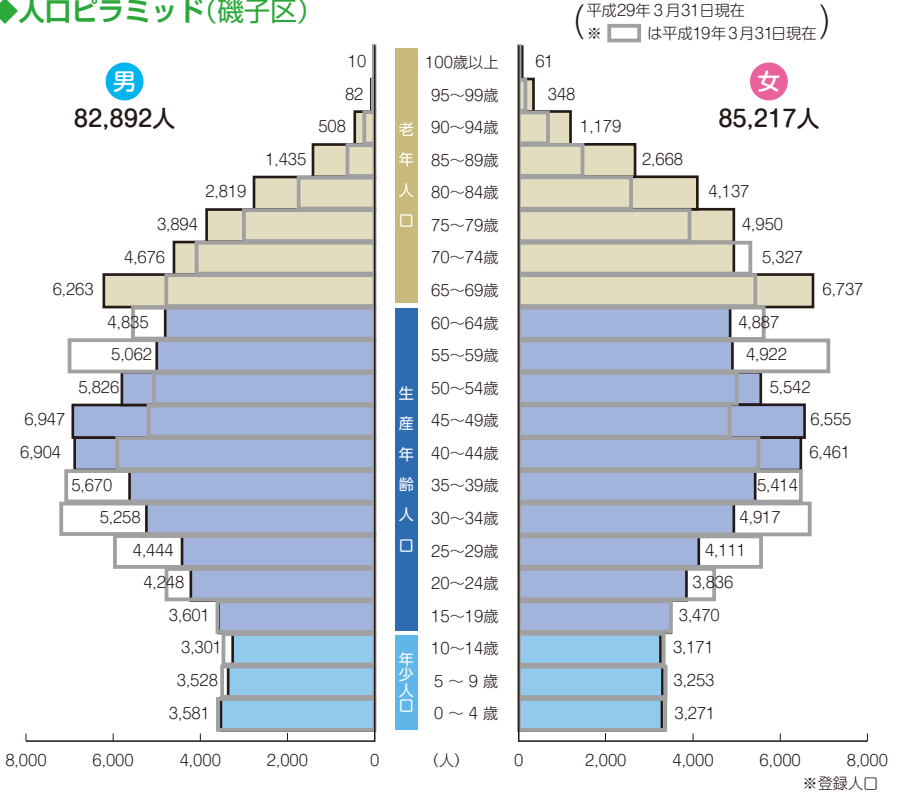
## ◆人口異動の推移（磯子区）

〈転入・転出の推移〉～転入者数は減少傾向～

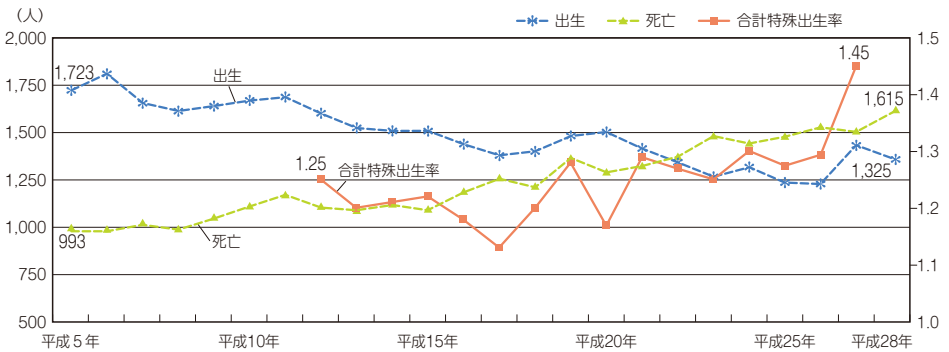


※資料：横浜市人口ニュース（各年1月1日～12月31日）

## ◆人口ピラミッド(磯子区)



## 〈出生・死亡の推移〉～出生者数は上昇に転じる～



※各年1月1日～12月31日

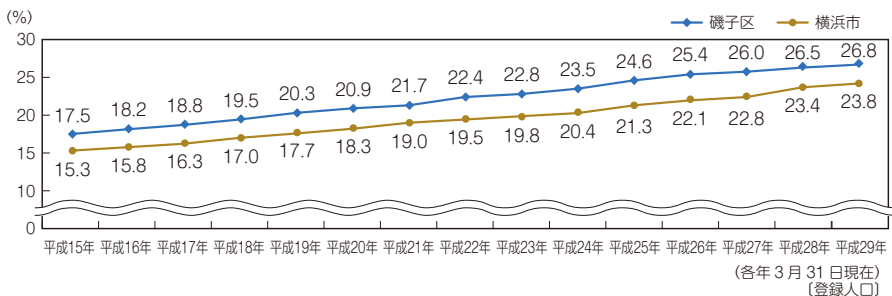
※合計特殊出生率は、1人の女性が一生に産む子どもの平均数です。

※年齢15歳～49歳の年齢5歳階級ごとに算出した出生率の合計で、平成12年～27年までの数値を掲載しています。

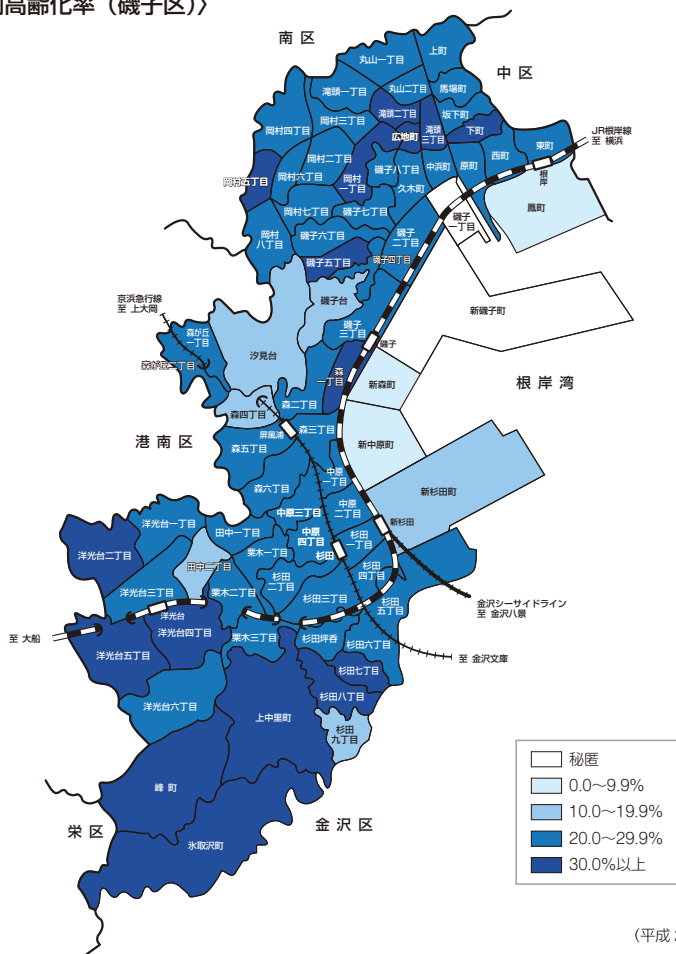
※資料1：横浜市人口ニュース

## 2. 高齢者（65歳以上）

### 〈高齢化率の推移（横浜市・磯子区）〉

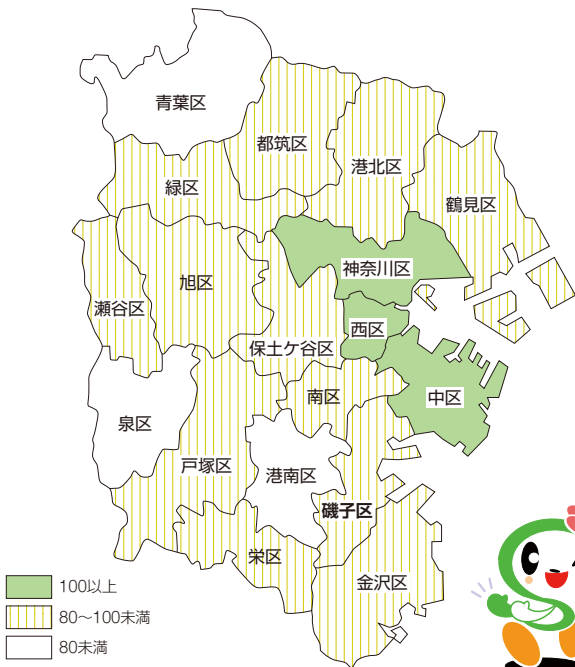


### 〈町別高齢化率（磯子区）〉





## ◆ 区別昼夜間人口比率



昼夜間人口比率とは、常住人口（夜間人口）に対する昼間人口の割合です。100を超えると通勤・通学等の流入が多く、その地域に昼間、人が集まっていることを示します。磯子区は、前回調査（平成22年）と比べて0.6ポイント減少しましたが、市全体では0.2ポイント上昇しました。

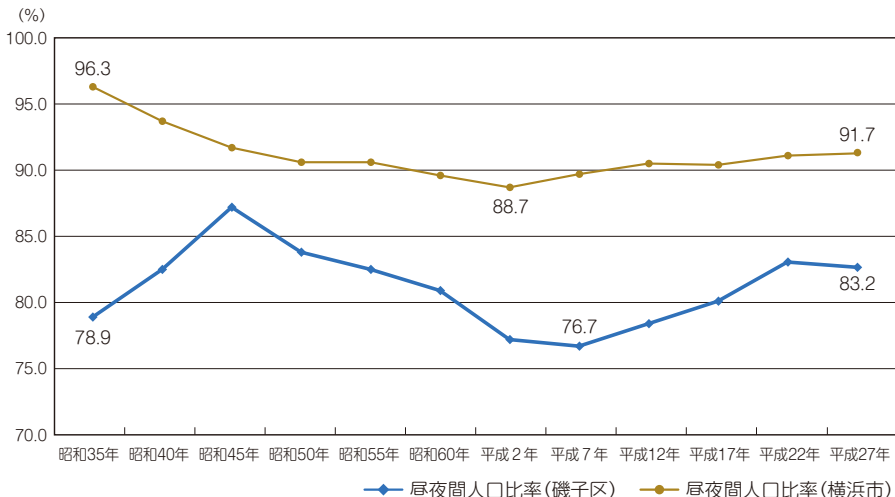
参考: 西区 186.0% (全国 14位)  
中区 161.2% (全国 23位)



磯子区の  
昼夜間人口比率は83.2%で  
横浜市内では  
18区中、11番目だよ。  
(平成27年10月1日現在)

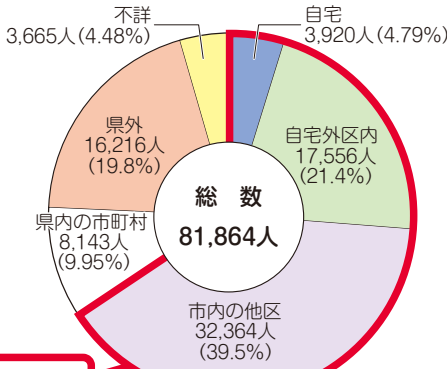
※資料：平成27年国勢調査

## ◆ 昼夜間人口比率の推移 ～磯子区、下降に転じる～



※資料：各年国勢調査

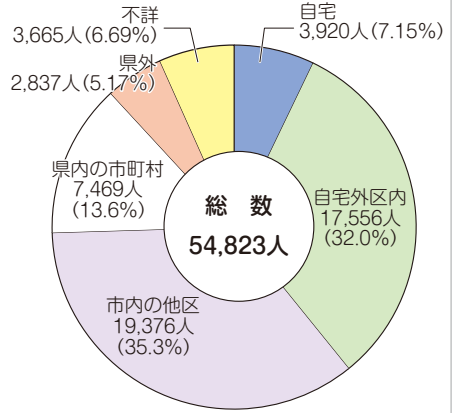
### ◆磯子区民の通勤・通学先 (15歳以上)



横浜市  
65.8%

※資料：平成27年国勢調査

### ◆磯子区へ通勤・通学する人の住所 (15歳以上)



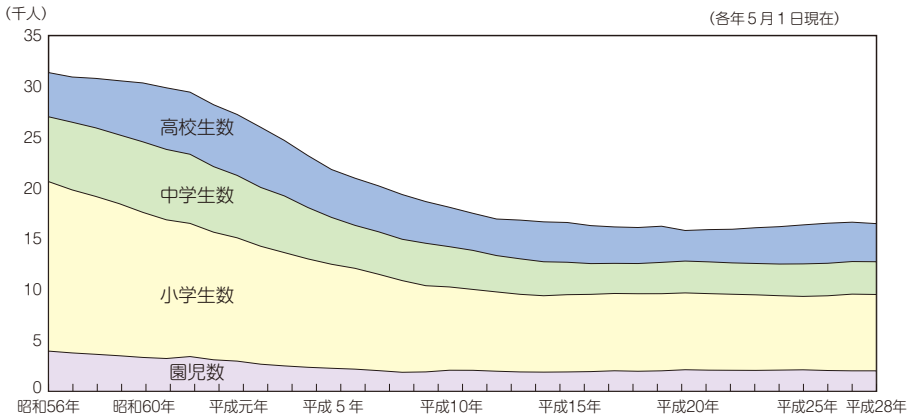
※資料：平成27年国勢調査



磯子区に住んでいる人のうち、  
横浜市内で通勤・通学する人の割合は、  
65.8%(全市56.6%)で市内で1番多い区なんだよ  
(平成27年10月1日現在)

### ◆園児・児童・生徒数の推移 (磯子区)

平成28年は園児2,043人、小学生7,477人、中学生3,232人、高校生3,725人、合計16,477名となっており、ピーク時(昭和56年、合計31,357名)と比べてほぼ半減しており、明らかな少子化傾向が見られます。

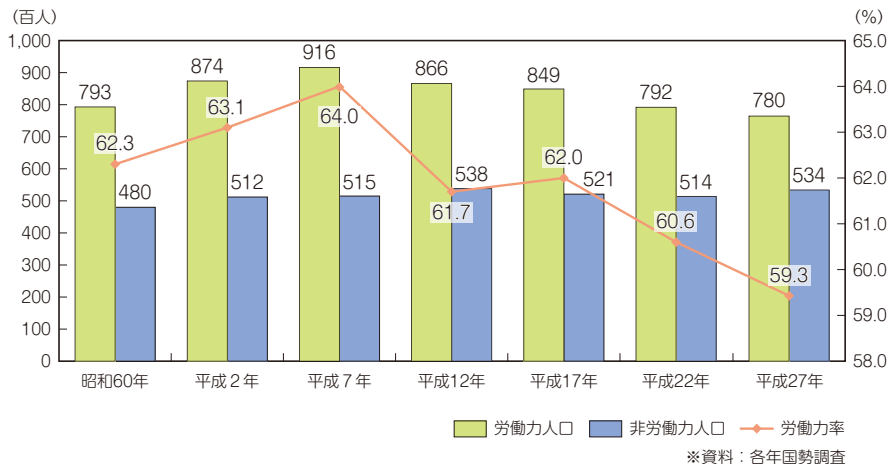


※資料：学校基本調査



### ◆労働力人口 ～磯子区は引き続き減少傾向に～

労働力人口とは、満15歳以上の人口のうち、就業者と完全失業者（就業していないが、就職活動をしている失業者）の合計のことをいいます。また、満15歳以上の人口に対する労働力人口の割合を労働力率といい、磯子区では平成7年から減少傾向にあります。



### ◆外国人口 ～東南アジア諸国が7割超～

(平成29年3月31日現在)

